

Title	ディスカッションリーダーの育成方法に関する研究 - ケースメソッド教育の確立と普及のための予備研究として -
Sub Title	
Author	竹内, 伸一(Takeuchi, Shinichi) 高木, 晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2003
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2003年度経営学 第1878号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002003-1878

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	高木晴夫 研究会	学籍番号	80228517	氏名	竹内 伸一
(論文題名)					
ディスカッションリーダーの育成方法に関する研究 － ケースメソッド教育の確立と普及のための予備研究として －					
(内容の要旨)					
<p>慶應義塾大学ビジネススクールは、討議型授業を基本とするケースメソッド教育法を、その主たる教育方法として位置付けている数少ない教育機関である。高木研究室では今年度、ケースメソッド教育法の持つ教育効果を他の教育機関や経営組織でも再現させることを目的に、当該教育方法による教育の実行に必要な条件を可視化するための探索的研究を実施した。</p> <p>本論文には、その中で本年度にもっともまとまった成果を得た研究 ― クラス討議をリードするディスカッションリーダーの育成方法に関するもの ― をまとめている。この研究は、ケースメソッド教育の起源や特徴の紹介から始まり、ディスカッションの進行を理解するための理論研究、録画済授業の分析を経て、筆者自らがディスカッションリーダーとなってMBA専門科目の1セッションに臨むアクションリサーチへと進んでいく。</p> <p>本研究の成果物として、①ディスカッションのコミュニケーションモデル（複雑系のエージェント・ベース・アプローチによる）、②授業内創発の発生プロセスモデル、③ディスカッションリーダーが果たすべき機能としての「フレーミング」「ファシリテティング」「トラッキング」が得られたので、これらを生かした「ディスカッションリーダー育成カリキュラム」の基本要件を提言した。</p> <p>論文最終章では、ケースメソッド教育の確立と普及をより確かにするために必要だと思われる後続研究を示している。ディスカッションリーダー育成に関する研究が、教員教育の手段という文脈を超えて、経営リーダー教育の手段にも転用できそうな感触を得つつ、本論文を締めくくった。</p> <p>なお、論文サブタイトルに用いた「予備研究」という言葉には、本研究の後工程として、ケースメソッド教育の普及を実現するための後続研究を「自らが行う」という志を込めたつもりである。</p>					